



No.30

UT University Forests News

# 科学の森ニュース

September 12, 2005

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 自然・体験教室森林アドベンチャー

樹芸研究所

7月23日に下田市教育委員会の主催する自然・体験教室森林アドベンチャーが青野研究林内で行なわれました。親子16組など48名が参加し、5班に分かれて用意された自然体験ゲームに挑戦しました。クリアできればヒントカードをもらうことができ、全部回ったところでヒントカードを元に、隠された答えを当てる森林アドベンチャーラリーが行なわれました。ゲームは竹の輪積み、林間しりとり、木登りクイズ、丸太切り&年輪数え、ロープワーク、林の中の文字当てなどが用意されました。午後は鴨田所長の講義「森の不思議」の後、午前中に詠んでもらった森林川柳の展示、森の生き物に関するクイズコーナーと続き、閉講となりました。



林間しりとりの様子

「科学の森ニュース」のカラー版(pdf形式)を東京大学科学の森教育研究センター(演習林)のホームページからダウンロードすることができます。(http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/)

# トピックス

## 小・中学校教員の「野外体験学習」！

### 千葉演習林

7月21～22日、千葉県総合教育センター主催の小・中学校、盲・聾・養護学校教員を対象としたSPP事業（Science Partnership Program、文部科学省支援事業「自然体験活動講座」）が開催されました。参加者は24名で、専門家の指導による「ネイチャーゲーム」を楽しみ、講師役の演習林教職員（5名）の案内による貴重なモミ・ツガ天然林やスギ高齢人工林（146年生）の見学、小櫃川最上流部での水生生物の調査やニホンジカの夜間観察などを行いました。また、参加者は、演習林教員の「環境保全に配慮した森林施業」などの講義を受けました。種々の体験の成果は今後の授業に発揮されると思います。



小櫃川最上流部での水生生物の生息調査

## IUFRO 世界大会報告

### 秩父演習林・藤原 章雄

オーストラリアのブリスベンにて8月7日から14日にかけて開催されたIUFRO（International Union of Forest Research Organizations：国際森林研究機関連合）世界大会に参加しました。5年に1度の世界大会と

いうことで終始華やかな雰囲気の中、世界各国からの発表が行われていました。世界の研究者に自分の研究をアピールする良い機会だったと思います。In Congress Tourでは世界遺産である中東部オーストラリアの多雨林保護区を見渡せる国立公園へ行きました。南半球は冬ですが亜熱帯気候のブリスベン周辺は日中20度を上回るほど暖かくて過ごしやすく、オーストラリアの空気と森林を満喫しました。



メイン会場でのオープニングセレモニーの様子

## 高校生のための森と海のゼミナール

### 千葉演習林

7月26日（火）～28日（木）に、千葉演習林と千葉大学海洋バイオシステム研究センターを会場として「高校生のための森と海のゼミナール—自然の中で考える環境問題と生物多様性—」が子どもゆめ基金の助成を受けて開催されました。応募者は高校生14名でした。

今回は初めての試みとして演習林ボランティアの方々に協力いただき、心強い限りでした。

昨年に引き続いて参加した生徒が一人おり、前回非常に感動したので再度応募したとの発言があり、スタッフ一同感激しました。また、その生徒は昨年の参加者間で自然関係のイベント等をメール交換し今でもつながりを持っていること、今年の参加者のアドレス交換を積極的に行い、今後情報交換を行う旨活動していました。主催者として若い人達の活動の輪のきっかけを作ったことは望外の喜びです。

## 8月自由見学日 参加者より

### 秩父演習林

この度は、ご案内いただきありがとうございました。他の参加者からは「思いがけない、イワタバコの大群生に出会えた大満足の日でした。」とか「念願のトロッコ軌道跡が見られて良かった。」、「公開日が限定されているために荒らされていず、自然が保たれ素敵な場所でした。」、「紅葉の時にまた来たい。」、「季節を変え何度も行ってみたいです。」の声が出ていました。我々は通常、資料を読んだり看板を見ての行動ですので、今回のようにご案内いただけると、幹事としても大助かりでした。お世話いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

※自由見学日は開放する区間を自由に見学していただくものですが、スタッフに余裕のある場合は案内もしています。秋の紅葉シーズンに、ぜひ歩きに来てください。



8/16 自由見学日・入川軌道跡の入口付近

## 台湾大実験林王亜男教授を招聘し、 大学演習林運営について議論

### 研究部

8月17～23日にかけて国立台湾大学実験林管理所所長の王亜男教授を招聘しました。台湾大学実験林の溪頭地区は、一般の見学利用に開放され年間100万人を超える人々が訪れるほどの人気です。森林のことを多くの人々に知って

いただく情報発信拠点であるとともに、その入場料収入が実験林運営の財政的基盤になっています。王教授には大学演習林での事業化についての情報提供や助言をしていただき、また秩父演習林を見ていただきながら法人化後の演習林運営について意見交換させていただきました。

## 夏の森林教室

～学ぼう！房総の自然「森の落し物（めぐみ）」～

### 千葉演習林

7月18日（海の日）、第7回・夏の森林教室が、79名の参加者を迎え、千葉演習林の郷台で開催されました。

今回初めてガイドブック「猪ノ川溪谷の大自然～春・夏編～」を作成し、有料での開催を試みましたが、募集定員を上回る応募があり、森林教室が身近な自然学習の場として地域社会に浸透しつつあることを実感しました。

猪ノ川林道での自然観察、モミ・ツガ天然林や苗畑の見学、大人向けの講義や子供向けの川遊び、ぶり縄による木登りや丸太切り、相ノ沢スギ品種展示林の見学等、参加された方々には大学の森に親しみ、学んでいただきました。そして一般の森とは異なる役割を担っている演習林の森への理解を深めていただけたと思います。

また、千葉県インストラクター会のほか、千葉演習林ボランティア会の応援もあり、滞りなく終了することができました。



夏の森林教室 2005 集合写真

## クスノキ

クスノキ科 クスノキ属

学名 : *Cinnamomum camphora* (L.) Presl

### 樹芸研究所

樹芸研究所のクスノキ林は、当時専売品であった樟脳を採取するため、個人の起業家によって1910年からの約10年間に植林されました。現在では、約50haのクスノキ林に成長し、これはクスノキの人工林としては世界に類を見ない広さです。クスノキは庭園樹、街路樹、建築材、医薬品、家具材、仏壇等に広く使われています。また、樹芸研究所には当時の名残として樟脳を採取するために使われた大釜があります。



現在、高木を適度に間引きながら後継樹を育てる方法の確立を目指し、林分構造、様々な日陰の条件における種子の発芽、年ごとの落下種子数の変化、ギャップ（大木が倒れるなどして森林の地表面が明るくなった場所）における天然更新稚樹の成長経過などの調査・研究を行っています。

## 名所・名物案内

### この一き、なんの木？

北海道演習林

この巨大な木は、北海道演習林46林班にあります。サイズは胸高直径6.4m、樹高23m、樹冠長径27m、短径26m、枝下高2.2mです。胸高直径は北海道演習林の中で1、2位を競っています。また、高さ2.2mで4つに枝分かれしており、それぞれの直径が56cm、50cm、50cm、46cmとなっています。さらに高さ3mで3つ（それぞれ30cm、30cm、28cm）、高さ4mで2つ（34cm、32cm）に枝分かれしています。推定される樹齢は800年です。この木を見学した人は、生命力を授かろうと樹幹に触れ、一様に感嘆の息を漏らします。北海道演習林では林木の遺伝子を考え、木材としての価値の低い木から伐採する事によって望ましい遺伝子がより発展し、好ましからざる遺伝子がより減少または淘汰するよう施業しており、そのなかで、これまでこの「暴れ木」が伐採されずに残った理由は判りません。単に、伐採しても利用できそうもないから、あるいは伐採するには太すぎるから、ということではなさそうです。この木には今後もおそらく誰も収穫調査札をつけようとしませんことでしょう。



(答え : ミズナラ *Quercus crispula* Blume)

### 科学の森ニュース (UT University Forests News) 第30号 (No.30)

発行日 平成17年9月12日 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1  
 発行人 永田 信 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部  
 編集人 丹下 健 TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494  
 E-mail mori@uf.a.u-tokyo.ac.jp